

# 大日本主義時代の人口政策の帰結

## Consequences of Population Policy in the Period of Dai-Nippon-Shugi (Great Japanism)

大塚友美 (日本大学)

Tomomi Otsuka (Nihon-University)

[Tomy19532000@yahoo.co.jp](mailto:Tomy19532000@yahoo.co.jp)

本研究の目的は、大日本主義の時代〈大正元年(1912年)～昭和20年(1945年)〉における日本の人口増加政策が、わが国の人口動態および人口に如何なる影響を及ぼしたか、を人口経済学の観点から考察することにある。

幕末の黒船の来航後、植民地化されかねない危機に直面した日本は、明治期にはいると、欧米に対抗し得る国民国家の早急な構築を目指して富国強兵政策を採り、殖産興業を推進した。そして、成長・発展する経済力とそれに支えられた軍事力を対外的に誇示することによって、第1次世界大戦頃までには“世界の一等国”となった。しかしながら、当初は植民地化の回避を目的としていた日本の国是、富国強兵は、大正期に入る頃には他国を侵して憚らない“大日本主義”へと変質していた。

ここでは、大正元年(1912年)から第2次世界大戦に敗れる昭和20年(1945年)までの期間をとりあえず大日本主義の時代とするが、この時期の日本では、①米騒動〈大正7年(1918年)〉、②人口論争〈大正15-昭和8年(1926-1933年)〉、③人口食糧問題調査会の設置〈昭和2年(1927年)〉、④大恐慌〈昭和4年(1929年)〉、⑤昭和恐慌の発生〈昭和5-6年(1930-1931年)〉、⑥満州国建国〈昭和7年(1932年)〉、⑦五・一五事件〈昭和7年(1932年)〉、⑧二・二六事件〈昭和11年(1936年)〉、⑨第2次世界大戦〈昭和14-20年(1939-45年)〉、⑩人口政策確立要綱の閣議決定〈昭和16年(1941年)〉、といった我が国の人口政策に関する議論を考察する上で極めて興味深い歴史事象が生じた。とはいうものの、この時期の日本においては、人口増加政策が一貫して採られていた。

この点に関しては、前回の日本人口学会第71回大会(2019年、香川大学)において発表した。しかしながら、この時期の日本の人口増加政策が、わが国の人口動態および人口に如何なる影響を及ぼしたか、といった点にまでは触れることができなかった。

本研究の主たる目的は、この問題、すなわち、大日本主義の時代における人口増加政策が、わが国の人口動態および人口に如何なる影響を及ぼしたか、を人口経済学の観点から考察することにある。

なお、本研究の分析結果の詳細に関しては、発表当日に配布するレジメ等を参照されたい。